

ふれあい雪谷

平成23年 10月 もみじ号 通巻第84号



からすうり

東中 藤田 卯女子さんの作品

母校の思い出 43

毎朝の連続テレビドラマ“おひさま”の主人公陽子の女学生時代は、すべてが私の学生時代そのもののようで、当時を振り返りながら見えています。あこがれて入学した女学校は、世田谷区の桜新町にある都立桜田高女でした。戦勝!!戦勝!!と生徒が日の丸の旗を振り、合格した生徒の家の前では万歳を三唱し、この学校へ入学できたらとあこがれていました。当時は、陸軍大将、東條英機の家が学校の近くでしたので、体育の時間は白鉢巻を締めて、一年生の私たちは、東條家の芝生の草むしりをするのが授業の一コマでした。大国のアメリカと戦って勝つはずがないのに、今考えると、そんな馬鹿なことだらけでした。

昭和19年になり、集団疎開の話が持ち上がりました。私と弟は父の故郷の長野県飯田市へ両親と離れて縁故疎開しました。当時の県立飯田高女、現在の風越高校です。岸田今日子さん姉妹や有名人の娘さんたちもどんどん疎開してきました。19年末に、両親は、子供たちを孤児にだけはさせたくない、東京からやって来て、家族4人で暮らすことができました。



三年生の8月に終戦となりました。その後のことをどうしても書きたいのです。飯田市に風越寮という養護施設があります。戦災孤児、父が戦死し母は食糧不足で餓死等々、恵まれない孤児たちを収容する施設でした。保育士、栄養士、ケースワーカーの資格を持っていた私は、是非にと頼まれて、これらの子供たちと寝食を共にすることにしました。

このたびの大震災で、親御さんを亡くされたお子さん方を思うと胸が張り裂けそうです。これからの人生ではいろいろなことがあると思いますが、一日も早く復興することを願っています。

(南雪谷・藤田佐和子)

編集後記

自治会防災部主催の「東日本大震災ボランティア」に参加しての講演会を旭硝子の平岡成樹氏を講師に迎え7月12日に雪谷特別出張所で行いました。経団連加盟企業の有志37人と訪れた宮城県石巻市と亘理町では、津波による一面の惨状に言葉を失ったこと、5月24日からの3日間ではあったが比較的被害の少なかった農林家の床下泥掻きや側溝掃除などを行い、「ありがとう。綺麗になったね」と言われ多少の満足、達成感を味わったことなどが多数の写真を使い報告されました。震災から約半年、記憶から忘れないうちに、いま自分が何を出来るかを改めて考え直してみましよう。

(希望ヶ丘・小松克一郎)

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月・新年号/4月・さくら号/7月・あさがお号/10月・もみじ号/の1日発行)
[発行日] 平成23年(2011年) もみじ号 10月1日(通巻・第84号) 発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] 「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

私の健康法 43

ラジオ体操とウォーキング

私は現在、古稀を3年過ぎた年齢になるが、5・6年ほど前から、雨や台風など天気が悪い日以外は、毎日歩いて15分程の洗足池公園でラジオ体操をやっている。近隣の人達約60人が集い、なじみの人にあいさつを交わし、ラジオ体操の前後には時節の話がはさむ楽しいひとときである。

体操が終わると帰りは長原商店街を通り、少し大回りして7時半ごろ家に帰り着く。

(東雪・高山敏雄)

シャワーで汗を流した後の朝食は食欲がすむ。

公園の行き帰りににはポケットラジオを聞きながら、時にルートを変え、住宅街の庭先に咲く四季折々の花々を鑑賞するのも楽しみの一つである。

ラジオ体操以外でもできるだけウォーキングを心がけ、ボーリング仲間とは隔週金曜日(3ゲーム)を楽しんでいる。

また、月2回ぐらいお酒を飲んだあと、カラオケで思いっきり歌をうたっているのがストレスが溜らない。これが私の健康法だと思っている。



サークル紹介 50

絵手紙教室「二歩の会」

七年前、母が急逝してショックのどん底の私に、心温まる「絵手紙」が届きました。両親が若かりし時の、初仲人をしたご夫妻からでした。

奥様が日本絵手紙協会の公認講師をされていて、以前から教室に行きたいと思っていました。が、遠方が多く火曜日の夜限定で何人か集まれば教えていたいただける事になり、今年一月からこの「一歩の会」が始まりました。引き出しの沢山ある楽しい先生です。



是非一度見学にいらして下さい。ご入会歓迎です。

☆日時 毎月第二・第四火曜
午後六時～八時
☆場所 池の台自治会館
☆問い合わせ先
(三七二〇) 五四七三

(池の台・田丸恵子)

石川台駅周辺の駐輪場整備と環境

石川台周辺の地域は、閑静な住宅街が中心をなしておりますが、都心への交通も便利であり、商店や企業の本社などある住みやすい街です。

しかし石川台駅周辺の駐輪場は区道に設けられており、通行可能な幅員が3.4メートルしかありません。歩行者は車が行き来する狭い道を30年近く事故の危険にさらされてきました。

最近では特に収容しきれない自転車の放置も広がりつつあり、抜本的な対策が必要と雪谷石川台自治会はその対策に取り組むことに致しました。

平成19年12月大田区に駐輪場整備の陳情をし、翌年になって雪谷地区自治会連合会からも地域の要望として区に陳情を致しました。



昨年4月、自転車駐輪場対策の一環として駅前に地下立体駐車場を設置して頂きました。収容台数250台(定期利用175台、当日利用75台・有料)で近隣の自転車利用者が駅の改札口まで乗っていける。管理人が常駐しているため盗難も防ぐことができ、高機能自転車も安心して預けられる。雨水もかからないなど一定の改善が見られ地域

の方々はその利便性にとっても喜んでおります。

一方陳情している池上線石川台駅周辺の線路敷き土手の活用駐輪場計画提案も東急電鉄に協力して頂けることになりました。

今年5月、陳情の趣旨に沿っていま供用している駐輪場を撤去し、線路沿い呑川方向道路に仮駐輪場を設置致しました。大田区と東急電鉄の合意による役割分担も決まり工事は上手法面を2メートル削り自転車160台、原付バイク10台が収容可能な駐輪場が整備される事となりました。7月19日から本格的な工事に切り掛かる事になり近隣の人たちはやっと願いがかなったと開設する日を待ち望んでおります。

元来、石川台駅周辺は起伏に富んだ地形であるため長区間にわたり、おおきな法面を形成しております。特に洗足池寄りには掘割で、春になると緑のトンネル、とても美しい桜の花が見る人の心を和ませております。一方、雪谷大塚寄りの盛り上がった法面は野草の生い茂るに任せた感がありますが、駅までの行き帰る人々に四季折々自然の草花に触れる親しみを与えてくれます。

また、『新編武蔵風土記』によるとこの線路敷地は旧鎌倉街道沿いであり、雪谷行人塚の遺跡があると伝えられています。先人達が努力して築き重ねてきたこの地の歴史を次の世代に継承していくために、人々がその意識を持って環境に優しい整備と協力を惜しむことなく、地域と協調し良識ある人々の考えを集約して雪谷石川台自治会は運営に取り組んでおります。

(雪谷石川台自治会会員)

人生の楽園

ある夕食の時、テレビに“ふれあい雪谷”元編集委員であった東雪の松尾勝子さんが写っていました。

彼女は旅行好き、特に山歩きの大好きな方です。御主人も同様で一人で秋田に行った時、角館の武家屋敷が大変気に入り移住してしまいました。松尾さんもちらの住いはそのままにして、御主人の所に行き武家屋敷の住民となりました。地元の方々と仲良くなり、御自分も色々勉強し現在は語りべをしながら旅行に来た人々を案内し人生を楽しんでいるのを知り、連絡を取って詳しく聞かせていただきました。

冬は雪に埋もれた生活ですが春がきて枝垂れ桜が街中一斉に咲き乱れ、それはそれは見事で黒板塀との調和が何んとも云えないとの事です。

みちのくの小京都是夏には緑が黒板塀にはえて又違った景色も味わえるし、江戸時代からの名物料理を口にするのもいいものです。私も一度出掛けて見たいと思いながら実現出来ずにいたところ思いがけずテレビで元気な姿を拝見でき嬉しく思いました。

東京を離れてこれからの人生を違った意味で楽しんで健康に感謝し広い屋敷で家庭菜園をしながら山好きの彼女は近くの山々を挑戦し毎日を送っているそうです。何んとも羨ましい限りです。

都会に住んでいるお子さんお孫さんも時々集り賑やかな様子を見て、どこに行っても地域の人となり都会で生活していた方でも本人の努力で楽しい生活を送られる、まさに人生の楽園といえるでしょう。

(東中・直井稔枝)

居合道雑感

なでしこジャパンW杯決勝での同点ゴールの澤主将の右足一発。居合抜きを思わせる美技と新聞のコラムにあったが、その居合に出会って後期高齢者の現在も修行中の身である。

林崎甚助公を流祖とし時代を経て多くの流派が派生し現在も主な古流が現存している。世界に比類ない利器、日本刀を用いて定められた武技を通じ身体練磨、業の精妙を競うより心身の円満になることを務め自己完成を目指すことを目的とする。多くの武道がそうであるように居合道も禮より始まり禮をもって終わる。

神前の禮、師の禮、相互の禮、刀の禮。紋付、稽古着、帯、袴の着け方など着付けも習得する。昨今では女性の入門者が増え理由を尋ねると武道を通じての礼儀作法を学びたいとのことの方が大方である。

居合道は「先の先」、又は「後の先」で鞘放れの一瞬に勝ちを制する必要上、創案された刀法で座居、歩行する時、如何なる時、処に於いても正しい真剣の刀法と身体の運用を練磨し、自身の心を練達する道である。

居合道は私が学ぶ古流「無雙直伝英信流」から発したといわれている。業、心は文字で表現出来ない面が多い為に口伝又は別伝として、惑いは歌に伝えられたという。

「居合とは人に斬られず人斬らず」

(笹丸・井本忠昭)

自治会だより

小池自治会・紹介

小池自治会の前身は池上町史(昭和7年9月発行)によると、昭和6年創立の小池協和会で、旧地番、池上町大字池上40番地(現在の自治会館のあたり)にあり、池上町大字池上字小池(現在の池上台4丁目のあたり)、平塚(水道局から射水坂公園のあたり)、小池台(小池の池から



大正期の小池周辺

長原商店街に向かったあたり)、小池下(小池から流れていた川と2丁目の洗足流れに沿ったあたり)、蟬山(現在の池上台3丁目のあたり)を以って区域として、約400名の会員を擁していました。

第2次世界大戦の敗戦により、自治会活動も禁止され解散、昭和27年に禁止が解かれたことにより小池自治会として再結成されたものと思われます。

小池自治会は平成5年4月に大田区に対し地縁団体の登記をして、法人格を取得、自治会館の土地と建物、隣の小池

稲荷の土地も自治会のものとして登記してあります。

現在の小池自治会の区域は、大田区池上台1・3丁目(一部を除く)の区域と、4丁目の全域、並びに2丁目7番・8番及び東雪谷4丁目6番・8番ですが、この地域の地名は昭和7年までは池上町大字池上であり、その後大田区池上台となりました。昭和43年の住居表示実施による町名変更で池上台となり現在に至っております。もともとは「池上町大字池上字小池」という地名であったところが「池上台」と替わり小池という地名もなくなった今、小池の名前が残っているのは本家本元の小池の池と、小池小学校、そして小池自治会ということになったのでこの名前を大事に引き継いでいきたいと思っています。

活動としては、9月に行われますお祭り、青少年部によるスキー教室・潮干狩り、文化部によるハイキングや見学会、交通部による春・秋の交通安全キャンペーン運動、防災部による春・秋の防災啓蒙運動、防犯部による春・秋の防犯活動、町内防犯パトロール、剣道部による小・中学生・女性に対する剣道の指導、美化部による街の美化運動、街灯部による町内私道部分の街灯管理、婦人部による大田区の女性運動に対する協力参加や子供会の実施、市民消防隊によるポンプ操法の訓練、交通部と青少年部合同の小学生対象交通安全・防犯講習会の実施等、いろいろ行っております。

また敬老会組織としての小池白寿会、地域の安心安全のための消防団や交通青年団、お祭りの実施団体としての小池若者組合とも連携を取って活動しておりますので、会員の皆様の参加協力よろしくをお願いいたします。

(小池・森井郁夫)